

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 11 月

○ 概要

(1) 平成 29 年 11 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,324 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+1.8%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,131 円（伸び率+3.8%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,592 億円（伸び率+0.5%）、薬剤料が 4,721 億円（伸び率+2.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 863 億円（伸び率+17.0%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,557 円（伸び率 3.3%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.87 種類（伸び率▲1.2%）、23.1 日（伸び率+4.6%）、84 円（伸び率+0.0%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,849 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+51 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 799 億円（伸び幅▲29 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の+42 億円（総額 682 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,849 億円 (+51 億円)	21 循環器官用薬 (799 億円)	11 中枢神経系用薬 (682 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (569 億円)
0 歳以上 5 歳未満	36.0 億円 (▲6.6 億円)	44 アレルギー用薬 (15.7 億円)	61 抗生物質製剤 (8.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.8 億円)
5 歳以上 15 歳未満	86.0 億円 (▲9.7 億円)	44 アレルギー用薬 (33.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (18.2 億円)	61 抗生物質製剤 (11.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,326 億円 (+8 億円)	11 中枢神経系用薬 (293 億円)	21 循環器官用薬 (238 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (208 億円)
65 歳以上 75 歳未満	941 億円 (▲6 億円)	21 循環器官用薬 (236 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (168 億円)	11 中枢神経系用薬 (115 億円)
75 歳以上	1,460 億円 (+64 億円)	21 循環器官用薬 (322 億円)	11 中枢神経系用薬 (255 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (188 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,131 円（伸び率 +3.8%）で、最も高かったのは北海道（11,005 円（伸び率 4.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,83 円（伸び率+1.5%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+6.5%）、最も低かったのは佐賀県（伸び率+1.5%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 863 億円（伸び率：+17.0%、伸び幅：+125 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	70.2%	+2.7%
薬剤料ベース	18.3%	+2.3%
後発品調剤率	70.3%	+2.3%
（参考）数量ベース（旧指標）	48.3%	+3.3%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+17.0%	+24.4% (50 歳以上 55 歳未満)	+5.8% (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3%	19.5% (65 歳以上 70 歳未満)	12.4% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	768 億円 (+115 億円)	21 循環器官用薬 (243 億円)	23 消化器官用薬 (112 億円)	11 中枢神経系用薬 (85 億円)
0 歳以上 5 歳未満	8.2 億円 (+0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.7 億円)	61 抗生物質製剤 (1.33 億円)
5 歳以上 15 歳未満	15.8 億円 (+1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (8.3 億円)	61 抗生物質製剤 (3.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	257 億円 (+40 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (37 億円)	23 消化器官用薬 (32 億円)
65 歳以上 75 歳未満	194 億円 (+30 億円)	21 循環器官用薬 (78 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (20 億円)
75 歳以上	293 億円 (+43 億円)	21 循環器官用薬 (95 億円)	23 消化器官用薬 (52 億円)	11 中枢神経系用薬 (35 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,246 円	1,615 円（北海道）	1,026 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.3%	+24.3%（徳島県）	+15.2%（鹿児島県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	70.2%	80.3%（沖縄県）	62.2%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3%	22.6%（鹿児島県）	15.6%（徳島県）
後発医薬品調剤率	70.3%	79.3%（沖縄県）	64.5%（東京都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	48.3%	58.3%（沖縄県）	43.3%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 29 年 11 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。